

養成人材

人文学及び関連する社会科学の諸成果を継承し、多様な文化及び価値観を理解するとともに、自ら問題を設定・解決し、国内外の人々との確に意思を疎通できる能力を培うことを通して、現代の文化及び社会の諸問題に対処し得る人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与の方針

教養学部では、現代の文化及び社会の諸問題に対処し得る人材になるため以下の知識、能力を身につけ、卒業要件として定めている124単位を修得した学生に学士(教養)の学位を授与する。

(1) 専門的な深い知識の修得に関連する事柄

所属する専修課程(グローバル・ガバナンス専修課程、現代社会専修課程、哲学歴史専修課程、ヨーロッパ・アメリカ文化専修課程、日本・アジア文化専修課程)における学修によって、次のa~dを達成している。

- a. 各分野で蓄積された先行研究の成果をよく理解し、体系的で深い専門知識を修得する。
- b. 専門分野の方法(語学を含む)に習熟する。
- c. 専門分野に関して自身で問題を設定し、それについて探求・解決する能力を身につけている。
- d. 自身の研究成果を他者に説明し議論する能力を身につけている。

(2) 専門性のある幅広い基本的知識の修得に関連する事柄

次のa, bを達成している。

- a. 人文学・社会科学・自然科学に関する幅広い基本的知識を修得する。
- b. 所属する専修課程の専門分野に関連する分野の基本的知識を修得する。

(3) 知識を活用できる汎用的な能力の修得に関連する事柄

次のa~dを修得している。

- a. 幅広い視点に立って、自身で問題を設定する能力
- b. 設定した問題について情報や知識を的確に調査・収集する能力
- c. 設定した問題について多面的かつ論理的に考える能力
- d. 自らのアイデアを的確に伝える能力(語学の運用能力を含む)

(4) 学部における人材養成の目的に合致した能力の修得に関連する事柄

次のa, bを修得している。

- a. 国際的視野を持ち、国内外の多様な文化および価値観を理解する能力
- b. 現代の文化や社会の問題にさまざまな形で取り組む能力

教育目標

- 1 人文社会科学系専門科目を学修するための幅広い基礎を修得する。
- 2 所属専修課程(グローバルガバナンス)における基本的な専門知識を修得する。
- 3 所属専修課程(グローバルガバナンス)における特定の専門知識を修得する。
- 4 所属専修課程(グローバルガバナンス)における専門分野の理解を深め、その知識を運用するための方法を修得する。
- 5 演習や卒業論文作成を通じて、所属専修課程(グローバルガバナンス)の専門分野に関する問題設定と課題解決をする能力、およびその成果を発表する能力を育む。

年次	科目	到達目標	教育目標1	教育目標2	教育目標3	教育目標4	教育目標5
1~2	国際政治学入門	国際政治学における「理論」と「事実」に関するの基礎的・入門的な知識を修得する	◎	○			
1~2	国際開発学入門	「国際開発」の現場を、多角的な視点から捉えるための「眼」を養うことを目標とする。本講義を通じ、様々な見方や意見を踏まえた上で、自らの頭で考え、自分なりの見解をもつための訓練を行うことで、現代国際社会を生きるために必要なリテラシーを身につけるための機会を提供したい。	◎	○			
1~2	国際政治経済学入門	グローバル化の時代からブロック経済への時代へと変化する国際社会を理解するために、国際政治経済学の基礎的な方法を修得すること。そうした作業を通して現代社会に必要な知識を獲得することも目標とする。	○	◎			
1~2	国際法学入門	近代国際法から現代国際法への転換に関して提起されてきた主要な論点を理解し、概説することができる。	○	◎			
1~2	Introduction to Development Economics	開発経済学の基礎的な理論を習得すると同時に、発展途上国が直面している経済・社会問題を理解する。	○	◎			

1~2	国際協力論入門	(1) 国際協力の基礎理論とその潮流、主要なアジェンダについて説明できる。 (2) 授業で扱うアクターが、国際協力においてどのような役割を果たしているのか説明できる。 (3) 関連する文献(日本語・英語)の趣旨を正しく読み取った上で、批判的に考察することができる。	○	◎			
2	社会科学のリサーチ・メソッド	・本科目を履修することで、受講生が社会科学系(特に政治学)におけるリサーチ・メソッドとして: 1. 比較研究・事例研究の各手法を理解し、実践できるようになり; 2. 量的調査・質的調査の各手法の概要を把握し; 3. 論文の書き方について、リサーチ・クエスションの設定から論文構成まで理解できるようになり; 4. リサーチ・プロポーザルを作成できるようになる ・以上4点を具体的目標にしています。			○	◎	
2	社会開発の分析手法	1) 社会科学の理論形成における事例研究のあり方を理解し、説明できるようになる。 2) 社会調査の基本的な考え方や技法を理解し、自分の研究に応用できるようになる。 3) 先行研究を批判的に読み解く力を身につける。			○	◎	
2	世界政治の分析手法	・世界政治上の事象を事例研究(Case Study Research)および質的方法(qualitative methods)によって考察する際に不可欠となる方法や手法を把握し、適切かつ実現可能な研究計画を立案できるようになる(よって本授業では、基本的に量的方法(quantitative methods)は扱わない)。 ・国際政治学分野の英語文献読解力(リサーチ能力の一部)の向上も目指す。 ・以上を通して、合格水準(不可にならない)以上の国際政治学分野の卒業論文を執筆する能力を獲得する。			○	◎	
2	政治経済学研究法	定性研究の特徴と理解し、それを適切に利用できるようになること			○	◎	
2	国際判例研究	国際司法裁判所の代表的な判決の核心部分を理解し、それに対していかなる反対意見や批判が提起されたかを理解し、取り上げた国際紛争の争点のより深い理解と説明ができる。			○	◎	
2	Principles of Econometrics: Learning and Practicing	この授業では、社会や経済における様々な問題を実証的に分析するための方法論である「計量経済学」の基礎理論を修得する。さらに、実際のデータを用いて、分析のスキルを身につけることが目標である。			○	◎	
2~4	グローバル・ガバナンス特別課外実習	実践的な面からグローバル・ガバナンスにアプローチし、その実現に貢献すること。			○	◎	
2	Integrated English Skills (Communication) IA	To aid communicative fluency in English.				◎	
2	Integrated English Skills (Communication) IB	To help learners gain more fluent interaction in English conversation and become aware of how to develop a conversation from a single topic. Students should show a good ability to control conversations in pairs or in groups and develop an awareness of weak parts of their communication skills they need to study more.				◎	
2	Integrated English Skills (Writing) IIA	To help guide learners to more logical and organised writing for academic style reports/texts.				◎	
2	Integrated English Skills (Writing) IIB	To help guide learners to more logical and organised writing for academic style reports/texts and to raise awareness about the writing format required for writing reports and dissertations. There will be a particular focus in the use of citations, sources and researched based writing in this semester.				◎	
3	Integrated English Skills (Reading) IIIA	To help learners develop more effective reading skills through both extensive and intensive reading and to develop conversation skills based on reading material.				◎	
3	Integrated English Skills (Reading) IIIB	To help learners develop more effective reading skills through both extensive and intensive reading and to develop conversation skills based on reading material.				◎	
2	国際政治学概論	国際政治学における代表的理論に関する理解を深める		◎	○		
2	国際政治経済学概論	・国際関係上の基本的な争点とは何であり、且つ、それがなぜ、現代の国際関係において重要なのかを理解できるようになる ・そのような国際関係上の争点を対象とする国際関係論の学問的性格の基本を理解する ・国際関係を様々な角度から、多面的に捉えることができるようになる ・国際関係に係る特定の争点について自分自身の意見を表明し、且つ、意見の異なる相手とも活発に議論して、集団での討論に貢献できるようになる		◎	○		
2	国際法学概論	国際法学における領域論および海洋法や、国家責任論の問題について概説することができる		◎	○		

2	国際協力論概論	(1) 国際協力の理解に必要な概念や理論を理解し、説明できる。 (2) 国際協力の事例から得られた課題・教訓を抽象化し、他の事例を考察する際に応用できる。 (3) 国際協力に対する自分の考えを主張し、他人の意見を踏まえて、考察を深めることができる。	◎	○			
2	Development Economics	開発経済学に関する基礎理論を習得した上で、発展途上国における経済・社会問題を理解する。	◎	○			
2	Macroeconomics	マクロ経済学の基本的な考え方および基礎理論を理解し、マクロ経済政策を分析できる基礎知識を習得する。	◎	○			
2	Microeconomics	ミクロ経済学の基本的な考え方および基礎理論を理解し、経済現象および経済政策を分析するための基礎知識を習得する。	◎	○			
2	国際開発政策論	・本科目を履修することで、受講生が： 1. 開発途上国の困難な条件・障害を理解する； 2. 様々な開発問題に関する重要なイシューを批判的に把握できる； 3. 究極的には途上国に向けた開発・援助政策を建設的に提言する政策能力を養う。 ・以上3点を具体的目標にしています。	◎	○			
3~4	グローバル・ガバナンス論	・冷戦終結以降に台頭したグローバル・ガバナンスについての、さまざまな概念・分析枠組み・理論・モデルについて考察し、理解を深める ・現代の世界が直面するグローバル・ガバナンスに関連した具体的課題について検討し、理解を深める ・グローバル・ガバナンスを自分自身の課題として考え、行動し、他者と協力できるような「主体性」と「協働性」を涵養する	○	◎			
3~4	近代国際政治史	・本講義では、17世紀から第二次大戦時までの大国を中心に展開された近代国際政治史における重要な出来事を理解する ・と同時に、それらの歴史からどのような「教訓」を得られるかについても考える ・とくに、最近の国際政治では、新興国台頭による権力移行と大国間対立の高まり、伝統的なパワー・ポリティクスの復活、ナショナリズムや排外主義の勃興、民主化の停滞と民主主義の後退、保護主義貿易を求める声、など、「(第二次大)戦前回帰」とも思えるような現象が散見されるようになった。冷戦終結時、米国の政治学者フランシス・フクヤマは(人類のイデオロギー闘争としての)「歴史は終焉した」と述べたが、歴史の終焉どころか、歴史が逆流しているかのような錯覚に陥りかねない状況にすらある。 ・過去の国際政治史から学べるものがあるとすれば、それは何か。現代における国際政治上の諸問題も念頭に置きながら、受講者と共に考えてゆきたい	○	◎			
3~4	現代国際政治史	本講義を通して学生は下記のことができるようになることが目標です。 1. アメリカの20世紀の外交を中心とした国際政治史を理解し説明することができる 2. アメリカの対外介入が各国に与えた影響を歴史的に説明することができる	○	◎			
3~4	アメリカ政治経済論	日本においてもメディアを通してアメリカに触れる機会は少なくないが、基本的な情報を欠いているため正確な理解が実現できないことが多々ある。こうした状況を脱脚し、自分でニュースを判断できる思考力の形成促進を目指す。	○	◎			
3~4	政策決定論	・国際関係上の基本的な争点とは何であり、且つ、それがなぜ、現代の国際関係において重要なのかを理解できるようになる ・そのような国際関係上の争点を対象とする国際関係論の学問的性格の基本を理解する ・国際関係を様々な角度から、多面的に捉えることができるようになる ・国際関係に係る特定の争点について自分自身の意見を表明し、且つ、意見の異なる相手とも活発に議論して、集団での議論に貢献できるようになる	○	◎			
3~4	比較政治経済論	・国際関係上の基本的な争点とは何であり、且つ、それがなぜ、現代の国際関係において重要なのかを理解できるようになる ・そのような国際関係上の争点を対象とする国際関係論の学問的性格の基本を理解する ・国際関係を様々な角度から、多面的に捉えることができるようになる ・国際関係に係る特定の争点について自分自身の意見を表明し、且つ、意見の異なる相手とも活発に議論して、集団での議論に貢献できるようになる	○	◎			
3~4	アメリカ史概論Ⅰ	アメリカの歴史や社会、文化に関する知識を深める。 週10ページ程度の英文を毎週読み、要約し、コメントをすることで英文読解力ならびに発言力を高める。 文献に関するディスカッションに貢献する能力を涵養する。	○	◎			
3~4	アメリカ史概論Ⅱ	アメリカの歴史や社会、文化に関する知識を深める。 週10ページ程度の英文を毎週読み、要約し、コメントすることで英文読解力ならびに発言力を高める。 文献に関するディスカッション能力を涵養する。	○	◎			

3~4	History of US Foreign Relations	The primary purpose of this course is to provide a survey of the history of American foreign relations. Diligent students will complete the course with an enhanced understanding of US diplomatic history and historical study.		○	◎		
3~4	History of US-Japan Relations	The primary purpose of this course is to provide students with a survey of the history of US-Japan relations. Successful participants should thus leave the course with sound fundamental knowledge of this history, insight that may also prove useful in understanding contemporary relations between these two countries. Because the course is conducted in English, non-native speakers will also have an excellent opportunity to improve their language abilities.		○	◎		
3~4	比較政治学	<p>・本授業によって、履修者は次のことを獲得するものと期待されています：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 比較政治の基本概念や方法論、メリットを把握できる。 2. 国際関係論の主要なイシュー（制度・文化・政策…）、分析のレベル（個人・集団・社会・国家…）が整理され、政治現象について自分なりに「何に」、「どのように」アプローチすればよいかを把握できるようになる。 3. 世界の多様な政治体制について、幅広い視野を持ちながら、特徴を理解し、比較できる。 4. 多様な政治が引き起こす結果について、因果関係・相関関係の観点から理解することができる。 		○	◎		
3~4	国際紛争の平和的解決	各分野で蓄積された先行研究の成果をよく理解し、体系的で深い専門知識を修得する。		○	◎		
3~4	条約法	条約の概念、条約の締結、国会による条約の承認、条約の留保、条約の無効、国際法上の強硬規範などの条約法の基本原理を理解し、説明できる		○	◎		
3~4	開発と政治	<p>・本授業によって、履修者は次のことを獲得するものと期待されています：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開発途上国における公共政策の政策過程に関して、政治的文脈・制度というガバナンスの側面を中心に幅広い知識を得ることができる。 2. 開発のパフォーマンスと国家の間にどのような関係があるかを理解できる。 3. 開発における政治にはどのような病理が出現するのか。 4. 開発と両立するような民主主義体制をいかに設計・構築するかを論じることができる。 <p>・以上を具体的目標にしています。</p>		○	◎		
3~4	地域研究	<ol style="list-style-type: none"> (1) グローバリゼーションの中の貧困、移民・難民、紛争、開発といった課題について理解を深める。 (2) 「地域研究」という学問の基本的な考え方やアプローチを身につける。 (3) フィールドワークの理論と手法を理解し、自分の関心のある地域・トピックに関し、フィールドワークの計画を立案できるようになる。 (4) 特定の地域の課題を理解する方法としての地域研究の可能性と限界について自分の見解を示せるようになる。 		○	◎		
3~4	グローバル市民社会論	<ol style="list-style-type: none"> (1) グローバリゼーションの中で変容する国際社会の課題を「小さな民」の視点を取り入れることができるようになる。 (2) 世界で起きている出来事が、自分たちとどのように結びついているかについて考える視点を身につける。 (3) グローバルおよびローカルな課題に対する市民社会の役割について、自分の見解を示せるようになる。 		○	◎		
3~4	武力紛争法	武力紛争に関する国際法上の規制内容を理解し、国際法の知識に基づき、現実が発生する武力紛争を法的に分析・評価することができる。		○	◎		
3~4	国際開発フィールドワーク I	<p>・本実習は次の目標を掲げています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現地調査の実施能力の獲得：開発・貧困・援助の諸問題・諸政策に関する知識・理解、事前の研究と準備に基づき、現地調査を実施することができる。 2. 特定フィールドに関する深い理解・分析の獲得：事前の情報収集に加えて、現地調査での資料収集によって、各自の研究テーマに関して深く理解できるようになる。 		○	◎		
3~4	国際開発フィールドワーク II	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実践的なフィールドワークを通じて、途上国の社会開発及び国際協力の課題についての研究手法を習得する。 2) 開発に関する問題を論理的に分析できるようになる。 3) 異文化における調査・研究活動及びその準備と成果のまとめを通じて、リーダーシップや協調性を養う。 		○	◎		

3~4	Peacebuilding	Students who complete this course are expected to be able to: <ul style="list-style-type: none"> describe global trends and the nature of the contemporary armed conflict, explain the basic theory and practices of peacebuilding, see armed conflicts and humanitarian crises as the issues that concern themselves, think about what can be done, and put it into practice. 		○	◎		
3~4	国際貿易論	国際貿易論における基礎的な知識を習得して、現在の国際経済問題について考えること。		○	◎		
3~4	教育と開発	【目的】 本授業では、国際教育開発分野の研究動向の検討を通して、開発途上国を中心とした教育課題に関する知識と方法論を習得することを目的とします。 【目標】 <ul style="list-style-type: none"> 1990年代から今日までの国際教育開発目標の変遷について説明することができる。 SDG目標4のターゲットをリストアップすることができる。 教育理論を、自身の教育経験や世界の教育課題と照らし合わせて説明することができる。 国/地域/世界の教育データを用いて、SDGsの進捗状況を評価することができる。 ある開発途上国の教育課題を、先行研究の知見を用いて指摘することができる。 		○	◎		
3~4	開発人類学調査法	実際にカンボジア農村に赴き、カンボジア農村という異なる習慣・文化を持つ人々の中に身をおいて、既存の資料も踏まえて実際にインタビュー調査を行うことで、現地の農村地域に住んでいる人たちの教育や生活をめぐる状況を十分に理解するとともに、異文化理解の難しさを理解し、自文化を相対化できるようになること。		○	◎		
3~4	Finance and Monetary Economics in Developing Countries	この授業では、貨幣経済学の基礎的な理論に基づいて、発展途上国におけるファイナンスおよび貨幣経済学の基礎的な知識を習得する。		○	◎		
3~4	Contemporary International Affairs	Upon the completion of the course, students should be able to: - develop an understanding of phases and cycles of global capitalism; - understand basic trade theories and engage critically in debates about benefits and limitations of free trade; - understand the basic structure and function of international monetary and credit systems and critically examine the impacts of financial flows on economic stability; - critically assess the global climate challenges and efficacy of international governance bodies.		○	◎		
3~4	Communication for Global Leaders	Globalization has lead to an unprecedented amount of international integration. No matter whether working for a domestic or a foreign company, for the private sector, academia, or government, traveling overseas and working with people from other countries and cultures has become the standard for most professions. But working successfully in such an environment requires knowledge of the rules of international communication and the skills required of an international leader! This course will provide students an opportunity to familiarize themselves with interpersonal communication skills critical to ``Global Leaders'' such as running effective and productive meetings, active listening and contributing to team or group decision-making. As a results, this course helps you: Improve your leadership and communication capabilities. Communicate in supportive and hostile context. Assess your effectiveness in managing teams and surviving in them.		○	◎		
3~4	*国際法学研究 I	英語で書かれた高度な内容の文献を、ある程度時間をかければ正確に読みこなすことができ、その内容を説明することができる。		○	◎		
3~4	*国際法学研究 II	英語で書かれた高度な内容の文献を、時間を書ければ正確に読みこなせ、内容を説明できる		○	◎		
3~4	*国際法学 I	英語で書かれた高度な内容の文献を、ある程度時間をかければ正確に読みこなすことができ、その内容を説明することができる。		○	◎		

3~4	*国際法学Ⅱ	英語で書かれた高度な内容の文献を、時間を書ければ正確に読みこなせ、内容を説明できる			○	◎		
3~4	*国際協力研究Ⅰ	国際開発・国際協力分野の基本的な理論や知識、最新の主要な課題を理解する。			○	◎		
3~4	*国際協力研究Ⅱ	国際開発・国際協力分野の最近のトレンドや最新の知見を理解する。			○	◎		
3~4	*国際協力研究Ⅲ	国際開発・国際協力分野の基本的な理論や知識、最新の主要な課題を理解する。			○	◎		
3~4	*国際協力研究Ⅳ	国際開発・国際協力分野の基本的な理論や知識、最新の主要な課題を理解する。			○	◎		
3~4	国際法学講読演習Ⅰ	英語で書かれた学術的な文献を正確に読みこなすことができ、内容を説明することができる。					○	◎
3~4	国際法学講読演習Ⅱ	英語で書かれた学術的な文献を正確に読みこなすことができ、内容を説明することができる。					○	◎
3~4	国際政治学演習Ⅰ	・国際政治(学)上の課題を、理論的に考察し、議論できるような分析力や思考力を向上させる ・国際政治学および国際関係論の学術論文(英文)の読解力・理解力、ならびにそれを基にしたプレゼンテーション能力を向上させる ・国際政治に関連する「時事問題」を取り上げ、議論し、現在の国際政治事象に対する理解を深める					○	◎
3~4	国際政治学演習Ⅱ	・国際政治に関する事象について理論的に説明できるようになる ・国際政治に関する説明の妥当性を検証する方法を提示できるようになる ・国際政治に関する意義のある問いを立てることができるようになる					○	◎
3~4	国際政治学演習Ⅲ	・国際政治(学)上の課題を理論的に考察し、議論できるような高度な分析力や思考力を獲得する ・国際政治学および国際関係論の学術論文(英文)の読解力・理解力、ならびにそれを基にしたプレゼンテーション能力を向上させる ・国際政治に関連する「時事問題」を取り上げ、議論し、現在の国際政治事象に対する理解を深める					○	◎
3~4	国際政治学演習Ⅳ	・国際政治(学)上の課題を理論的に考察し、議論できるような高度な分析力や思考力を獲得する ・国際政治学および国際関係論の学術論文(英文)の読解力・理解力、ならびにそれを基にしたプレゼンテーション能力を向上させる ・国際政治に関連する「時事問題」を取り上げ、議論し、現在の国際政治事象に対する理解を深める					○	◎
3~4	国際政治学演習Ⅴ	・国際政治(学)上の課題を理論的に考察し、議論できるような高度な分析力や思考力を獲得する ・国際政治学および国際関係論の学術論文(英文)の読解力・理解力、ならびにそれを基にしたプレゼンテーション能力を向上させる ・国際政治に関連する「時事問題」を取り上げ、議論し、現在の国際政治事象に対する理解を深める					○	◎
3~4	国際政治学演習Ⅵ	・国際政治(学)上の課題を理論的に考察し、議論できるような高度な分析力や思考力を獲得する ・国際政治学および国際関係論の学術論文(英文)の読解力・理解力、ならびにそれを基にしたプレゼンテーション能力を向上させる ・国際政治に関連する「時事問題」を取り上げ、議論し、現在の国際政治事象に対する理解を深める					○	◎
3~4	国際政治経済学演習Ⅰ	グローバル社会の国際政治経済的理解					○	◎
3~4	国際政治経済学演習Ⅱ	国際政治経済学の視点からグローバル化する国際社会の現状と課題を的確に理解すること					○	◎
3~4	国際政治経済学演習Ⅲ	・国際関係上の基本的な争点とは何であり、且つ、それがなぜ、現代の国際関係において重要なのかを理解できるようになる ・そのような国際関係上の争点を対象とする国際関係論の学問的性格の基本を理解する ・国際関係を様々な角度から、多面的に捉えることができるようになる ・国際関係に係る特定の争点について自分自身の意見を表明し、且つ、意見の異なる相手とも活発に議論して、集団での議論に貢献できるようになる					○	◎
3~4	国際政治経済学演習Ⅳ	・国際関係上の基本的な争点とは何であり、且つ、それがなぜ、現代の国際関係において重要なのかを理解できるようになる ・そのような国際関係上の争点を対象とする国際関係論の学問的性格の基本を理解する ・国際関係を様々な角度から、多面的に捉えることができるようになる ・国際関係に係る特定の争点について自分自身の意見を表明し、且つ、意見の異なる相手とも活発に議論して、集団での議論に貢献できるようになる					○	◎
3~4	国際政治経済学演習Ⅴ	・国際政治経済学の諸問題に関して、幅広い視点に立って、自身で問題を設定する能力を獲得する ・複雑な国際社会の諸問題に関して設定した問題について多面的かつ論理的に考える能力を獲得する ・現代の国際社会が抱える諸問題にさまざまな形で取り組む主体的な能力を獲得する					○	◎

3~4	国際政治経済学演習 VI	・国際政治経済学の諸問題に関して、幅広い視点に立って、自身で問題を設定する能力を獲得する ・複雑な国際社会の諸問題に関して設定した問題について多面的かつ論理的に考える能力を獲得する ・現代の国際社会が抱える諸問題にさまざまな形で取り組む主体的な能力を獲得する					○	◎
3~4	国際法学演習 I	毎日のTVや新聞では、国際社会の問題が頻繁に取り上げられる。しかも、その中には国際法にかかわる問題がますます増えているように感じられる。ところが、そうした報道は、しばしば「学問的には」首をかき上げたいような内容のものも少なくない。そこで、この演習では、『国際法で世界がわかる』（森川ほか編. 岩波書店 2016年）を利用して、時事問題から国際法学の深淵にせまるような形で授業を進めることを目標としている。					○	◎
3~4	国際法学演習 II	毎日のTVや新聞では、国際社会の問題が頻繁に取り上げられる。しかも、その中には国際法にかかわる問題がますます増えているように感じられる。ところが、そうした報道は、しばしば「学問的には」首をかき上げたいような内容のものも少なくない。そこで、この演習では、『国際法で世界がわかる』（森川ほか編. 岩波書店 2016年）を利用して、時事問題から国際法学の深淵にせまるような形で授業を進めることを目標としている。					○	◎
3~4	国際法学演習 III	毎日のTVや新聞では、国際社会の問題が頻繁に取り上げられる。しかも、その中には国際法にかかわる問題がますます増えているように感じられる。ところが、そうした報道は、しばしば「学問的には」首をかき上げたいような内容のものも少なくない。そこで、この演習では、『サブテキスト国際法』（森・岩月編. 日本評論社. 2020年）を利用して、時事問題についても正確で学問的な理解に基づいて説明することができるようになる。					○	◎
3~4	国際法学演習 IV	毎日のTVや新聞では、国際社会の問題が頻繁に取り上げられる。しかも、その中には国際法にかかわる問題がますます増えているように感じられる。ところが、そうした報道は、しばしば「学問的には」首をかき上げたいような内容のものも少なくない。そこで、この演習では、『サブテキスト国際法』（森・岩月編. 日本評論社. 2020年）を利用して、時事問題についても正確で学問的な理解に基づいて説明することができるようになる。					○	◎
3~4	開発経済学演習 I	開発経済学に必要な基礎理論および分析手法を習得すると同時に、発表・議論などを通じて、開発経済における諸問題を理解する。					○	◎
3~4	開発経済学演習 II	開発経済学に必要な基礎理論および分析手法を習得すると同時に、発表・議論などを通じて、開発経済における諸問題を理解する。					○	◎
3~4	開発経済学演習 III	開発経済学に必要な基礎理論および分析手法を習得すると同時に、発表・議論などを通じて、開発経済における諸問題を理解する。					○	◎
3~4	開発経済学演習 IV	開発経済学に必要な基礎理論および分析手法を習得すると同時に、発表・議論などを通じて、開発経済における諸問題を理解する。					○	◎
3~4	国際開発学演習 I	・開発と援助の両イシューについて、多くの事例とイシューについての理解を踏まえ、最終的には、「開発途上国はどのような開発政策を実施すれば、そして先進国はどのような援助政策を実施すれば、途上国の発展が促進されるだろうか」という具体的かつ建設的な視点・考え方を身につけて欲しいと考えています。					○	◎
3~4	国際開発学演習 II	・本演習は次の目標を掲げています。 1. 現地調査の計画・実施能力の獲得：開発・貧困・援助の諸問題・諸政策に関する知識・理解に基づき、適切な調査計画を立案し、現地調査を実施することができる。 2. 特定フィールドに関する深い理解・分析の獲得：事前の情報収集に加えて、現地調査での資料収集によって、各自の研究テーマに関して深く理解できるようになる。					○	◎
3~4	国際開発学演習 III	・本演習は次の目標を掲げています。 1. 開発・貧困・援助の諸問題・諸政策について幅広く知識を獲得し、主要な争点を理解する。 2. 広く学び、主要な争点を押さえることで、自分が掘り下げるべき研究対象地域を特定し、卒業論文や自由研究を着実に進めることができる。					○	◎
3~4	国際開発学演習 IV	・本演習は次の目標を掲げています。 1. 現地調査の計画・実施能力の獲得：開発・貧困・援助の諸問題・諸政策に関する知識・理解に基づき、適切な調査計画を立案し、現地調査を実施することができる。 2. 特定フィールドに関する深い理解・分析の獲得：現地調査での資料収集によって、各自の研究テーマに関して深く理解できるようになる。					○	◎
3~4	国際協力論演習 I	(1) 「国際協力」「開発問題」に関連する文献を読み解く力を修得する。 (2) 「国際協力」「開発問題」を理解するための理論的枠組みを理解する。 (3) 「国際協力」「開発問題」をテーマに研究を進めるための方法論を修得する。 (4) 「国際協力」「開発問題」に関連し、自らの研究テーマを見出せるようになる。					○	◎

3~4	国際協力論演習Ⅱ	(1)「国際協力」「開発問題」に関連する文献を読み解く力を修得する。 (2)「国際協力」「開発問題」を理解するための理論的枠組みを理解する。 (3)「国際協力」「開発問題」をテーマに研究を進めるための方法論を修得する。 (4)「国際協力」「開発問題」に関連し、自らの研究テーマを見出せるようになる。					○	◎
3~4	国際協力論演習Ⅲ	1) 開発途上国(特にフィールドワークの対象となるラオス)の開発課題・国際協力の現状について、基礎的な知識を身につける。 2) 国際協力・社会開発の課題を理論的に分析できるようになる。 3) フィールドワーク計画の立案・準備を通じて、途上国の国際協力・社会開発の課題についての分析手法を修得する。					○	◎
3~4	国際協力論演習Ⅳ	1) 開発途上国(特にフィールドワークの対象となるラオス)の開発課題・国際協力の現状について、基礎的な知識を身につける。 2) 国際協力・社会開発の課題を理論的に分析できるようになる。 3) フィールドワーク計画の立案・準備を通じて、途上国の国際協力・社会開発の課題についての分析手法を修得する。					○	◎
3~4	Seminar in the History of US-Japan Relations I	Students will aim to further deepen their understanding of the history of US-Japan relations from the perspective of analyzing individual agency and deconstructing nationalism. 本科目の履修者は、人びとの「エージェンシー(行為者性)」やナショナリズムの脱構築の視座より、日米関係史に関する知識をさらに深めることを目標としましょう。					○	◎
3~4	Seminar in the History of US-Japan Relations II	この演習は日米関係史における様々な側面をより深く検討することを目標とする。演習の題目は学期によって設定するが、授業の主な課題は毎週に重要な文献と一次史料を読むことである。その課題を通して思考力を活かして討論に参加する学生が、演習のテーマに関する深い知識を身につけることが期待できる。また授業の課題と討論が英語になるので、学生の英語能力がより上達することも期待できる。今度の題目は、第二次世界大戦の終結である。それを到達するために出席者は文献を検討しながら討論することによって課題に関する問題を理解し、自分なりにその知識を身につけることが期待できる。					○	◎
2~4	分裂した世界における人権	国際的視野を持ち、国内外の多様な文化および価値観を理解する能力					○	◎
2~4	民族紛争問題	中東の紛争の事例を学ぶことを通じて、世界各地の紛争全般の原因、経過、結果、解決や予防の手法を説明できるようになることを目指す。授業キーワード(下記)を定義づけ、説明できる。関心のある地域の事例について情報収集や分析ができる。					○	◎
2~4	現代のジェンダー	・ジェンダーやセクシュアリティとは何かを様々な事例に即して学び、その基本的な概念を修得していること。 ・自社会におけるジェンダーバイアスを認識し、それをジェンダーの視点から説明することができること ・ジェンダーの視点から、現代社会の課題について、自分の考えをまとめることができること。					○	◎
2~4	現代の民族	・民族の歴史に関する知識を獲得する。 ・グローバリゼーションの中の民族のあり方について理解する。 ・現代世界の諸問題と民族との関係について人類学や社会学等でどのような研究がなされてきたのかを把握する。					○	◎
2~4	比較思想	東アジアの思想的展開を理解することで、多元的文化に向き合う素養を得ることができる。					○	◎
2~4	異文化交流史Ⅰ	国境を越えた歴史叙述のあり方を、各テーマに即して習得する。この作業を通じて、広い歴史的視野から異文化を理解するための考え方を養う。					○	◎
2~4	異文化交流史Ⅱ	現代の日中関係をめぐる諸問題の背景を理解し、歴史的思考力を身につける。					○	◎
2~4	地中海文化圏講義	翻訳のテキストで、ボッカッチョの「デカメロン」からいくつかの物語を読みます。その中世物語文学の中で女性や恋愛・セクシュアリティがどう描かれているかについて分析します。さらに16世紀の刊本でそれらの表現にどのような検閲が行われたかを見ます。女性や恋愛が、中世においてどのような表現で描かれ、近代的印刷による刊本というメディアの出現の時代、どのような検閲が行われるようになったのかを考えます。さらに20世紀以降の我々の感覚とのズレがどのように生じているのか、現代のメディアにおける女性表象や恋愛観についても考えます。					○	◎
2~4	欧米多文化主義論	アメリカの多文化主義の議論がどのように変化してきたかについて理解する。 アメリカの多文化主義が観光地でどのように実践されているか事例を探し考察できるようになる。 英語の文献を読み議論できるようになる。 授業に関連させた事例を探し考察できるようになる。					○	◎

2~4	世界の中の日本文化	日本・アジア文化における特定の専門知識を修得する。		○	◎		
2~4	漢字文化圏比較論	日本・アジア文化における特定の専門知識を修得する。		○	◎		
2~4	Contemporary Art and Media in Australia and Asia I	Exposure to art concepts and art works from diverse regions of Asia, Australia and Oceania		○	◎		
2~4	Contemporary Art and Media in Australia and Asia II	Exposure to art concepts and art works from diverse regions of Asia, Australia and Oceania		○	◎		
2~4	Comparative Higher Education	1.To understand key international higher education components and the historical events of Japanese higher education and the world. 2.To understand issues and challenges of contemporary higher education worldwide with their related policies and practices. 3.To perform your understanding in higher education research by producing research reports on international higher education.		○	◎		
4	卒業研究 I	4年間の学修の集大成：国際法分野の特定のテーマに関する説得力ある議論の提示：大学での学修成果を反映した論文の完成					◎
4	卒業研究 II	4年間の学修の集大成：国際法分野の特定のテーマに関する説得力ある議論の提示：大学での学修成果を反映した論文の完成					◎